



## 一人ひとりの幸せを大切にします。

女性も男性も大人も子どもも  
若者も高齢者も  
社会的に弱い立場の人も  
みんなが島根で  
安心して暮らせるように  
豊かな自然を守り  
原発のない暮らしを  
実現できるように  
がんばります。

島根県議会議員候補者

# はくいし恵子

## 県議会議員選挙 4月7日投票

### 三期日は当落線上の厳しい戦い 四期目をかける決戦の時。残るは3ヶ月

### 支援の輪を大きく広げて下さい

新しい年がスタート。  
政治決戦の始まりです。  
3期12年間、みなさま  
に支えられて活動してま

いりました。  
4期目の挑戦を決めて、  
時間も短く、選挙体制も  
立ち遅れていますので、  
急いで支援の輪を広げな  
くてはなりません。

3期目の得票は5,700  
票という当落線上でした。  
この状況を考えると4期  
目の選挙戦は極めて厳し  
いものになることは覚悟  
してやっています。

この選挙戦も残すとこ  
ろ3ヶ月を切りました。  
どうかみなさんの力を  
貸して下さいますようお  
願いします。

### 「はくいし」を押し上げる力は 「投票」に行くことから

3期目の投票率は53%  
と異常に低く、2人に1  
人しか投票に行っていませ  
ん。「はくいし」を押し上  
げていただくには投票に  
行っていただくところから

「今回の選挙」は「投票  
に行こう」を合言葉にし  
て、家族のみなさんを始め、  
友人、知人のみなさんへ  
声をかけて、投票に

行って下さい。  
事前の「不在者投票」  
を行っていただくことも極  
めて大切ですので併せて  
よびかけをお願いします。

新しい年を迎え、皆様おそろい  
で良いお年をお迎えのこととお慶び申  
し上げます。  
私に取りましてはいよいよ決戦の  
時が迫り、気持ちを切り替えて4月  
の県議会議員選挙に向かって突っ走っ  
てまいります。

元旦の新聞では「8年ぶり無投票  
か」の見出しがありました。選ぶ  
方も選ばれる方にとっても、また民  
主主義の観点からも無投票は決して  
良いことではありません。

前回選挙で選んで頂いた者として  
は、この4年間その期待に応えられ  
るよう頑張ってきたつもりです。どう  
評価して頂けるかは皆さん次第です

### 幸せの島根をつくりたい

が、残された期間も良い結果となる  
よう日々努力を重ねていく覚悟です。  
人口減少が続く島根県ですが、縮  
んでいく社会にあってどうすれば心  
豊かに、安心して暮らしていけるか、  
皆さんの知恵を結集し形にしていけ  
ば、その方法はきっと見つかること確  
信しています。  
都会から遠く離れた島根だからこ  
そ、大人も子どもも、老いも若きも  
女性も男性も力を合わせて、ひとり  
ひとりが幸せになる地域を目指して  
いきたいと思えます。  
決戦の時まで3ヶ月を切りました。  
一生懸命頑張ります。皆様のご支援  
をどうぞよろしく願います。

# 風だより



県議会議員はくいし恵子の

発行者 島根県議会議員  
はくいし恵子  
2019年1月15日発行  
拡大版 VOL.24

## (はくいし) 事務所

〒690-0882  
松江市大輪町414-12  
TEL・FAX  
0852-23-0880  
HPアドレス  
http://  
www.hakuishi.  
sakura.ne.jp/  
index.html

※是非、お立寄りください。

## 頑張りました「恵子」の12年

### これまでに取り組んできたこと

#### 女性の立場で

DV・性暴力被害者支援、女性の地位向上  
WLB(ワークライフバランス)の推進、平和を守る  
こと

#### 子どもの育ち

点数だけではない生きる力を育む教育  
学校図書館活用教育、人間関係プログラム  
森のようちえん、高校魅力化の推進

#### 地域の力を育む

小中学校統廃合問題、地域循環型経済の提案  
伝統工芸に携わる若者支援

#### 災害対策

松江市の内水対策  
防災会議に女性を入れる  
ソフト対策(避難意識醸成)の充実

#### 高齢者、障がい者、子どものこと

高齢者虐待問題、精神病院の身体拘束の問題  
障がい者雇用の拡大  
県奨学金制度に給付型を提案、児童相談所の体制  
充実

#### 原発

実効ある避難計画、核廃棄物最終処分の問題提  
起、再生可能エネルギー推進

### 形になったこと

- ◎DV被害者自立支援貸付金創設
- ◎小中高特別支援学校すべてに人のいる  
図書館実現(県単予算)
- ◎出雲高等技術校美容科の廃止撤回
- ◎新型インフルエンザ対策推進
- ◎公文書センターの設置
- ◎県営住宅の保証人が緩和された
- ◎再生可能エネルギー推進の条例成立
- ◎「障がい者を対象とした県職員採用」を  
平成31年度から全障がい者が対象になった
- ◎部長への女性配置
- ◎母子生活支援施設の建て替え
- ◎獣医師確保策対策

### 会派としての活動確立

～二期日から幹事長として  
会派の活動を計画的に行う～

- ◎知事に対し、毎年政策予算要望
- ◎毎年県外・県内調査、鳥取との合同調査を実施
- ◎セクハラ、性暴力被害者支援などの会派主催  
研修会を実施
- ◎議会中3回の街宣
- ◎会派の活動報告を新聞に掲載

## 後援会からのお願い

◎これまでに支援をお願い  
した方への再確認を  
これまでの選挙でご支援  
をお願いしていただいた方  
へ、今一度ご支援をお願い  
して下さい。  
そして投票に行っていた  
だくようお願いします。

◎県議選挙に関する情報の  
提供を  
各地域や職場で県議選挙  
に関する動きなどあれば事  
務所へ連絡していただけれ  
ば喜びます。

◎リーフレットを活用して  
下さい  
リーフレットは「はくい  
し事務所」にありますので  
声かけなどに活用して下さ  
い。  
必要な方はご連絡下さ  
い。お届けいたします。

◎支援の輪を広げて下さい  
声かけしていない友人、  
知人などがあればさらにも  
う一度声かけをしていただ  
けませんか。  
一票一票が大切ですので、  
ぜひ声かけをお願いします。



島根県議会議員(松江選挙区)

# はくいし恵子



# はくいし恵子の県議会報告



11月県議会

一般質問から抜粋  
(11/19~12/4)

9月県議会

代表質問から抜粋  
(9/6~10/5)

## 種子法廃止で農業は

— 予算と人員を確保する —

【知事】知事の政治姿勢について

強い者の側に立つ今の政治状況では、国に頼りすぎず「島根の未来は島根で決める」べきと思うが知事の覚悟を伺う。

【知事】大きな課題は人口減少を食い止めること。国の交付税等も引き続き要望する。地方の先進県島根を目指して全力で取り組む。

【知事】県内企業の支援について  
厳しい環境の中で頑張る県内99.9%の中小企業への思いを伺う。

望を持てるよう時々の課題に迅速に対応してきた。今後もしっかり支援する。

【知事】種子法廃止が県内農業に与える影響は、17年4月に廃止された「わゆる「種子法」に代わり、県が制定した「島根県主要農作物種子事業実施要綱」で将来にわたって米、麦、大豆の試験研究や予算が確保でき、県内農業を守れるのか伺う。

【知事】今年度もこの規定に基づいて予算、人員を確保する。今後も種子の安定的な生産供給体制を確保する。

【知事】高年齢になっても安心して暮らせる為の基盤作り

## 県職員の働き方改革を

— 上限を超える時間外は規則違反 —

【知事】知事の三期12年について  
やり残したことが、もっとやりたかったことがあれば伺う。

【知事】県と市町村が総力を結集して粘り強く取り組んでいくことが重要な課題だ。

【知事】県職員の働き方改革について  
(1)時間外の上限定の意図を伺う。

【総務部長】現在上限を超える時間外を行っている職員がいるが、それをなくす必要がある。上限導入によりそれを超える時間外命令は規則違反になるので、管理職の意識が変わると考えている。

【知事】優良事例を紹介し、住民1人1人が考えていく機運、仕組みを市町村と一緒に考えていく。



【知事】冬期や退院後の住まいはニーズが高くなると思う。事例を紹介する。

【土木部長】県営住宅へのユニバーサルデザインの視

点を設計に取り入れていきたい。

【知事】図書館活用教育の効果は多岐にわたるものであり、今後一層、将来を担う島根の子ども達に幅広い力が培われることを期待する。

【知事】図書館活用教育を促進する工夫について  
【教育長】図書館活用教育やそれぞれの考えや意見を出し合う授業などの実践研究を進めている。中学生には学習意欲向上セミナーを開催している。

【知事】島根原発について  
二段階評価の時点で高レベル廃棄物最終処分地が決まっていることを判断材料とする。

## 図書館活用の教育強化を！

— 指定校以外にも力を入れる —



【知事】指定校以外への訪問等に一層力を入れ、県全体で取り組まれるよう工夫する。指定校の選定方法も考えていく。

【知事】指定校以外の学校を訪問することや指定の仕方、数を増やす等工夫が必要だ

【教育長】丁寧な指導ができる、異年齢の協力、1人1人の存在感や役割を

【知事】防災について  
ハード対策と共に、ダム放流や避難勧告等の情報をダム管理者、県、市町村、住民等と情報共有し、適切な避難行動を徹底するソフト対策が必要だが如何。

【防災部長】住民参加型の取り組みを行っているが、今後も自主防災組織支援講演会、訓練を通し、県民の防災意識の向上に取り組む。

【知事】島根原発について  
二段階評価の時点で高レベル廃棄物最終処分地が決まっていることを判断材料とする。

## 命を守る防災対策の強化を

— 訓練などを通し意識の向上をはかる —

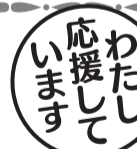
【知事】国が国民の理解を得る対話を始めたばかりであり、現時点で知事として考えを述べることは難しく、適切でない。

【知事】持続可能な島根のために大切な地産地消や材

持たせやすい等の良がある。市町村教育委員会と連携しながら環境の整備に努めていく。

【知事】豊かな自然環境、地域資源を効果的に活用し、地域内経済循環の視点を踏まえて施策に取り組んでいく。

【知事】豊かな自然環境、地域資源を効果的に活用し、地域内経済循環の視点を踏まえて施策に取り組んでいく。



私の娘が高校生の時のことです。帰ってくるなり「お母さん!! 司書さんってすごいね」と興奮気味に話してきました。何があつたのか尋ねるとその日娘は初めて図書室に行ったようでした。

こういう本を探したいと司書さんに話したところ、おすすめの本をさつと数冊選んで下さったことに感動したようです。それ以来、娘は度々図書

で出前講座・研修会を実施している。今後市町村担当者との意見交換なども行っていく。

【健福部長】島根県社会的養護体制推進計画をH31年度までに見直す中、その中で里親支援についてどんな支援が必要か、何が出来るか関係団体や学識

経験者等と十分意見交換し、充実を図っていく。

【健福部長】ヘルプマークを広く周知し、理解を深めて欲しい。

【健福部長】ヘルプマークについて  
ヘルプマークを広く周知し、理解を深めて欲しい。

【健福部長】ヘルプマークについて  
ヘルプマークを広く周知し、理解を深めて欲しい。

【健福部長】ヘルプマークについて  
ヘルプマークを広く周知し、理解を深めて欲しい。



# どうなる農業

最近、県内でも売れる米作りや有機農業の取り組みが拡大しています。身近にも教師を早めに取り組み、自然農法に取り組み人やリタイア後、無農薬の野菜作りにも励む人がおられます。

私たちは、日々口から食べる食物で体や心の健康を維持しています。高齢者は食が細くなると「もうそろそろだ」と言われます。食べることは生きることなのです。

そんなところに、9月議会でも質問した「主要農作物種子法の廃止」のことを聞きました。この問題を勉強すればするほど大変なことだと思わざるを得ません。米は日本の食糧自給率が40%を切るなかで、100%の自給率を保っていますが、「主要農作物種子法」廃止の影響がどうなるのか、とても心配です。

## 日本の食生活を

### 守った種子法

種子法は昭和27年に制定されました。戦中戦後、食糧難の時代を経験し、国民の食糧を確保するために主要農作物の種子が大事であり、二度と国民を飢えさせないために国の責任として法律を制定したのです。

法律では都道府県に対し、主要農作物である「米、麦、大豆」の優良な品種を決定するため、必要な

試験を行う事を義務づけ、そしてこの法律の下70年近く、各都道府県の試験研究機関やJA等が連携し、原原種、原種が守り育てられ、安価で農家に

種子に  
市場原理を導入  
ところが去年4月、唐突に「主要農作物種子法を廃止する法律」が成立

## 種子法が廃止



## 食の安心 安全が消える

供給されてきました。また各都道府県の試験研究機関では改良を重ねて各地域に合った優良な品種を産みだし、今では奨励品種で300種を超す米の品種が生産され、日本のどこでも美味しいお米を食べることができま

す。少数しか使用されない、少数品種の種子にあって肥料や農薬が集約されるといふことですから、少数品種の種子は消えていく運命になるのではないかと考えられます。同法第8条4項には、都道府県が持っている種子の生産に関する知見を民間事業者に提供することが掲げられており、また国会では民間事業者には外資系企業が含まれるとの答弁があったそうです。これでは大資本の外資系企業に席巻され、多様

性を持った種子がなくなり、病害虫や気候変動に対応できなくなり、各地域の気候にあった品種も淘汰される心配もあります。更に民間企業では儲かることが前提ですから、一代限りの種子（F1）や農薬とのセット販売もするようになるでしょう。そうなれば有機農業や自然農法で頑張っている農業者も維持が不可能になりますし、食の安全も脅かされます。

業者が種子を独占しないよう努めること等が掲げられていますが、付帯決議は法的拘束力を持ちません。今後、試験研究機関の

先の民間企業にゆだねられれば、地域に合った多様な種子を守っていく方向から「できるだけ同じものを効率的に広めていく」という方向になっていくでしょう。そうなってしまつたら地域振興の一役を担っている地域の少量しか生産されない米の種子は淘汰されてしまいます。何を食するか、何を作るか、を自分で決める権利を「食糧主権」というのですが、世界各地でそうですが、世界各地で「食糧主権」という巨大企業による種子の囲い込みに対抗し「食糧主権」を守っていくこととする市民・農民の運動もあると聞きます。

しました。廃止の理由は「種子の品質は安定している」「多様なニーズに対応するため民間の力を借りる必要がある」「法律は民間との対等性を阻害している」というもので、大切な国民の財産である米、麦、大豆の種子を市場原理に委ねようとする意図なのです。付帯決議には、今までどおり地方交付税を確保すること、種子の海外流出を防ぐこと、特定の事

役割と担保する地方交付税が必ず確保されるのか、民間企業に種子が独占されることはないのか、全く保証はないと言っていると思います。

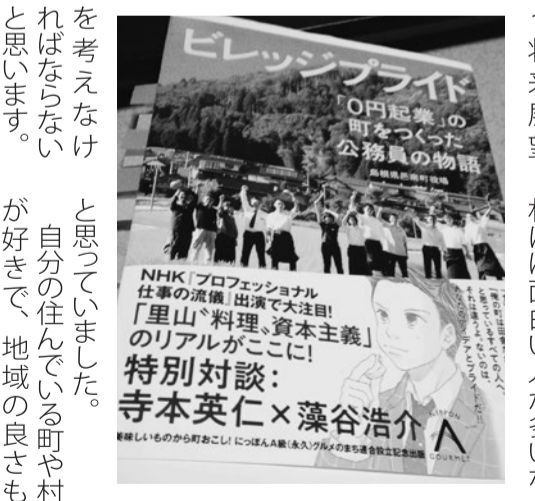
更に種子法廃止と同時に成立した農業競争力強化支援法では、第8条3項で「農業資材のうち生産性の少ない銘柄は集約すること」とされています。巨外資に飲み込まれる

# 地域で暮らし続けるために

島根県の人口は、毎年5千人ずつ減り続けています。今年の推計人口は68万人を切りました。一方、都会では人口は多くても未婚率が高く、子どもの数は減っています。島根県だけでなく、日本全体が人口減少社会に入っています。これからは縮む社会をどう維持していくのか、人口が減る中でどう生活を保っていくのか、という将来展望

## 持続可能な地域づくり

### 人口減少の中で 展望を開く



かつて中山間地域研究センターの研究員だった藤山さんの「田園回帰1%戦略」という本には「Uターンで地域の人口の1%を増やす、地域で出来たものを地域で消費し、域外に流出している経済の1%を取り戻すことで持続可能な地域にすることが可能になる」と書かれています。また大学教授の枝廣淳子氏の「地元経済を創りなおす」には、地域内で

惜しまない寺本さんの力だけでなく、彼を信じ、支え、励まし、アドバイスをする上司や町長の存在が大きかったのだと強く感じました。今や邑南町は地域内で経済が循環し、その結果仕事が増え、子育て世代が移住してくるといふ理想的な「地域型循環経済」を確立しています。どここの地域でも、邑南町のようにその地域の「売り」を大切に、地域内循環経済を作っていくけば、豊かな自然と人情と食文化が残る島根県ですから、きつと魅力的で持続可能な県になると確信します。

地域で壊れた野菜やお米、地域で育った牛乳やお肉を使った加工品等、地産地消の取り組みを進めることで、できるだけ地域の産品を買って、バイオマスや太陽光発電、小水力など地産地消のエネルギーを推進すること、薪ストーブの普及促進、学校や公的施設の椅子や机、床材を県産木材製にすることなど出来るだけ域内のお金を外に出さず、域内で循環させる取り組みが生まれ出す地域経済活性化の可能性に夢が膨らみます。あちこちでその好循環が生まれれば持続可能な島根県になるのではないのでしょうか。そのためにはやる気のある職員と、部下の思いを大切にすること、いつも職員のやることを気にかけ、後押しし、アドバイスをくれるトップの存在が必要なのではないでしょうか。

頑張る人・支える人  
そして努力と行動  
邑南町は総務大臣表彰など数々の賞も受け、TVでも取り上げられて有名になりましたが、ここに至るまでには、アイデアと行動力が抜群で努力を



### 会派の勉強会

11月議会中に、恒例となつている会派の勉強会を実施。今回は「新聞の読み方について」で、講師は山陰中央新報社N1B担当の清水由紀子さんです。

### 新聞を読む子は学力が高い

まずびっくりなのは、(う)すうすう気付いていたけど若い人はほんとうに新聞離れが進んでいるということ。中学、高校や新入社員研修でも新聞を読んでいる人に手を挙げてもらつてもぱらぱらだそう。

## 新聞の読み方

しかし、数は少なくても新聞を読む子の全国学力テストの正解率は全科で高いそうです。また、予算化されているにも関わらず、全国の学校図書館で新聞を1紙以上置いている学校は、小学校41・1%、中学校で37・7%、高校91%という調査結果だそうです。島根県の学校はどうでしょう。調べて見たくありませんか。新聞を取らない家庭が増えているのなら、

### 新聞ばなれとフェイクニュース

清水さんによれば、フェイクニュースを見分ける力も新聞やTVなど様々なメディアを読み比べることで付くそうですし、情報の「バランス感覚」も身につくそうです。

また新聞の書き方である。まずリード(第一段落)で言いたいことを書く。第二、第三段落でそれを補う説明やデータなどを示して具体的に書いていく、という方法は、議員

せめて学校で新聞を読む習慣を身につけさせたいですね。

が質問原稿を書くときにも役立つのではないですか、と提案があり、なるほど、と思いました。

得てして自分の書くパターンは決まっています、同じような展開の仕方になりがちですから、そういう手法を使ってみるのもいいかもしれません。

更に昔学校で習った「5W1H」も思い出させてもらいました。これは家での夫との会話に役立つかもしれません。親しいあまり省略して話すので「えっ、何の話?」「誰の話?」「何時の話?」という会話が多くなつてますから。



新聞の切り抜き体験で注目記事を選んだ県議会民主派議員クラブの議員

## 《選挙本番用のハガキを書いて下さい》

選挙本番用(法定ハガキ)が出来上りました。友人、知人の方の紹介を兼ねてハガキを書いていただけませんか。ハガキが必要な方は「はくいし事務所」へご連絡いただければお届けいたします。

一枚一枚が大切なハガキですので、ダブリ整理などいたしますので、2月末に届けていただければ喜ばれます。よろしくお願いたします。

## 娘の結婚

二番目の娘が結婚しました。長女は早く結婚したのに次女は中々良いお相手に巡り合わなくて心配していました。やっとその「時」は用意されているものなんです。決まったらあつという間でした。



重は夫婦2人になるんだと今更ながらしみじみ感じます。いつも仕事優先で、子育てはおばあちゃん任せでしたが、その分お年寄りに優しい子に育ったと思います。これからは2人で助け合つて幸せな家庭を築いてくれることを祈ります。

元々、近くだけけれどアパルト暮らしだったので、結婚しても寂しくはないと思つていましたが、いざ結婚してしまつと寂しくなるもんだな、と自分でもびっくりしています。

肩の荷が下りたといえは私たちの娘であることに変わりはありません。比較

## けいこの想い

久々に知事と「ガチ」で議論する機会でしたが、あまり議論はかみ合わず消化不良の気持ちが残りました。新教育長との論戦も同様で、ほとんど文科省の見解を述べるに止まっているように思いました。

で取り上げ、執行部と問題共有をしようとしています。優等生的答弁でなく、自分の考えや執行部の見解を述べ、議員とやり合つていくのが本意の「論戦」を交えたものだと思います。今後、そんな論戦が交わされるよう、私としても質問の仕方の工夫をしていきたいと思つています。

今県議会では、酷暑と言われた夏の暑さを踏まえ、学校へのエアコン設置が話題となりました。国も大幅な予算措置をしたことから「一気に設置が進みそうです。今後は電気代の問題や機器の更新が課題になると思つています。

国会では私達の暮らしに直結する法案が強行採決され続けているので、こもこも対峙しなければ、皆様からのご意見をお寄せください。



今年、11月なのに異常気象で20度を超える日もありました。12月に入り、さすがに雪マークの日がありました。

はくいし恵子(風だよりダイジェストから)

## 母の介護を通して考えること

12月9日、母が天に召されていきました。

食事の経口摂取が難しくなり、IVH(中心静脈栄養)を選択、サービス付き高齢者住宅に入居して、訪問看護、訪問ヘルパー、訪問リハ、訪問診療などの介護サービスを入れての生活を開始してから1年7か月、良く頑張つたと思つています。

### 特養の限界

実は食事の経口摂取ができていた間、3年ぐらいい特別養護老人ホームに入所していました。経口摂取できなくなる

と「胃瘻」か「IVH」かを選択せざるを得ません。しかし「IVH」を選択すると、医療依存度が高いとされ、特養は受け取れないのです。制度上は「IVH」の人はいれない、とはなつていません。しかし、ほとんどの介護施設では看護師は昼間だけの配置です。結果として医療依存度の高い高齢者は受け

## 問題が多い在宅介護

入れてもらえないのです。ですが、入院という選択肢以外は在宅(サービス付き高齢者住宅は在宅と同じです)です。特養入所者より介護度・医療依存度の高い高齢者を在宅で介護するというのは

で暮らし続けられるように誘導しています。その為、国主導で「地域包括ケアセンター」を各地域に設置し「住まい、医療、介護」を地域で一体的に提供できるようにする、という構想が進んでいます。もちろん誰もが

しかし、最期まで自宅で暮らすためには、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、訪問ヘルパー等、家に来てケアしてくれる多くの人手が必要です。それでなくとも人材がいらない、と言われている介護士や医師、看護師です。大きな人口の塊の私たちが世帯を在宅でケアできる

### 経費節減と不十分な体制

政府は団塊の世代が全員75歳以上になる2025年を見据えて、国が負担する費用を抑えるため、できるだけ地域で(在宅

大量の人材が各地域で確保できるのか、施設介護よりも在宅介護・在宅医療のほうがかつと予算が必要ではないのか、などは

地域の生き残りかけ「小さな拠点づくり」の議論と併せて、真剣に考えなければならぬ時に来ています。